

4	好きなものや嫌いなものを尋ねたり伝えたりする表現に慣れ親しむ。 ・【chant】 バナナじゃなくて banana チャンツ ・【chant】 Do you like chocolate? チャンツ ・【game】 Do you like かるたゲーム ・【Activity】 友達に尋ねたり伝えたりしてランキングを作る。		○	好きなものや嫌いなものを尋ねたり伝えたりしている。	行動観察 ふり返しシート
5 本 時	積極的に好きなものを尋ねたり伝えたりする。 ・【chant】 バナナじゃなくて banana チャンツ ・【chant】 Do you like chocolate? チャンツ ・【game】 Do you like かるたゲーム ・【Activity】 友達に好きなものを尋ねたり伝えたりして「5年1組人気のランキング」を完成させる。		○	積極的に好きなものを尋ねたり伝えたりしている。	行動観察 ふり返しシート
6	パフォーマンステストをする。 ・【chant】 バナナじゃなくて banana チャンツ ・【chant】 I like icecream チャンツ ・【chant】 Do you like chocolate? チャンツ ・【Activity】 パフォーマンステスト	○	○	好きなものや嫌いなものを尋ねたり伝えたりしている。	

(4) 研究の視点

研究の視点 2— (1) コミュニケーションへの興味・関心を高める指導の工夫

- ① 単元のゴールとなるコミュニケーション活動として、「友達にインタビューをして、5年1組の人気のおやつランキングをつくろう」を設定することで、友達の好きなものや嫌いなものを英語で尋ねたり伝えたりすることへの目的意識をもたせた。(※資料⑫参照)



【資料⑫】単元のゴールで作成したランキング表

第1時で、先生たちの人気おやつランキングを提示したり、実際にランキングを作る際の会話の場面を児童に見せたりすることで、ゴールとなるコミュニケーション活動への意欲を高めた。

- ② コミュニケーション活動の際には、「Good Communication」を意識させた。本単元は特に「Reaction」について指導し、反応があると会話がしやすくなることを実感させた。

研究の視点 2— (2) 英語を聞いたり話したりして慣れ親しむ活動の充実

- ① 本単元では、次のようなチャンツを行って、表現に慣れ親しませた。

チャンツ名	指導時	チャンツの内容
バナナじゃなくて banana チャンツ (CD)	第1時～6時	バナナじゃなくて、banana banana
I like icecream チャンツ (電子音)	第2時～3時	I like icecream. I like strawberry. I like I don't like cake. I don't like jelly. I don't like....
Do you like chocolate? チャンツ (電子音)	第3時～5時	Do you like chocolate? Yes, I do. I like chocolate. Do you like cake? No, I don't. I don't like cake.

② 本単元では、次のようなゲームを行って、表現に慣れ親しませた。

時	ゲーム名	ゲームの特性			
		聞く	音に慣れる	記憶したり自分のものにしたりする	自分の意思で選んで発話する
1	キーワードゲーム	○	○		
	陣取りゲーム		○	○	
2	キーワードゲーム	○	○		
	I like かるたゲーム	○	○	○	
3	I like かるたゲーム	○	○	○	
4	Do you like かるたゲーム	○	○	○	

③ コミュニケーション活動の前には、使用する英語表現を1人やペアで練習するリハーサルタイムを設定し、自信をもって英語で尋ねたり伝えたりできるようにした。

研究の視点2—（3）評価の工夫

① 児童の活動の際は、指導者が発音やリズムを意識しながら話している児童や「Good Communication」を意識して話して児童を積極的に認めたり褒めたりして評価した。

② ふり回りカードの次の視点から工夫した。

- ・1 単位時間の目標を記入しておき、その目標についてのふり回りを書けるようにする。
- ・友達のがんばりについて記入する欄を設けることで、相互評価ができるようにする。

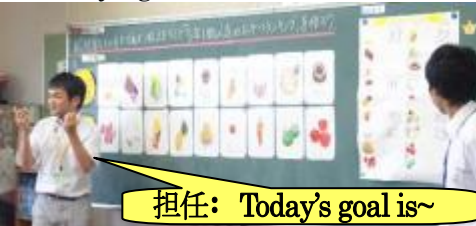
③ 単元の終末には、パフォーマンステストで英語を話すこと聞くことの達成度を評価して次の単元の指導に生かした。

（5）本時の学習

① 本時の目標 積極的に好きなものを尋ねたり伝えたりする。

② 本時の展開（5／6）

学習過程	時間	学習活動	教師の指導と評価 担任（T1：◇）EC（T2：◆）ALT（T3：■）
課題をつかむ	5	1 Greeting あいさつをする。 2 Warm up 復習チャンツをする。 ○ Let's play 「バナナじゃなくて banana chant!」	◇あいさつも clear voice を意識させた。 ◆ピクチャーカードを掲示して、チャンツを進行した。 ■発音のモデルになった。 ◇児童の発音の様子を見ながら、一緒にチャンツをした。
			【研究の視点2】（2）－①】 バナナチャンツを Warm up で毎時間行うことで、英語と日本語の音の違いを意識して発音できるようにした。

		3 Today's goal 本時の学習課題をつかむ。  担任: Today's goal is~	【研究の視点2】(1)-① 本時が単元のゴールであることを確認し、友達に好きな物を尋ねたり伝えたりすることへの意欲をもたせた。また、前時に半分作成したランキングを掲示して完成までの見通しをもたせた。
し っ か り 考 え る	18	4 Chant ○ Let's chant! 「Do you like chocolate chant!」  ALT: Do you like chocolate? C: Do you like chocolate? 5 Game ○ Let's play 「Do you like かるたゲーム」 	【研究の視点2】(2)-① 「Do you like chocolate chant」で本時で使用する表現に繰り返し慣れ親しませた。電子音に合わせて ALT が発音し、児童にそれを繰り返させた。このチャンツでは特に英語のリズムを意識させた。 ◇◆担任と EC で学級の児童を半分ずつ観察し、発音ができているかを確認した。発音することが難しそうな児童の側と一緒に発音した。 【研究の視点2】(2)-② 「Do you like かるたゲーム」で本時で使用する表現に繰り返し慣れ親しませた。ALT の発音を聞き、それを繰り返してから指定のカードを取らせることで「聞く→発音する」の活動を充実させた。
	15	6 Activity (1) 活動の進め方を確認する。  EC: Do you like icecream? ALT: Yes I do. I like icecream. EC: Me too. (2) リハーサルタイム  C: Do you like jelly? C: No I don't. I don't like jelly.	◆■EC と ALT が友達との尋ね合いの仕方のモデルを示して、活動の手順について確認した。 ◇モデルを見せた後に、コミュニケーションの態度の視点からの気づきやよかった点について児童に発表させた。 【研究の視点2】(1)-② 児童の気づきを生かして、reaction について指導した。本時では「me too」「really」等の言葉を使うとよいことを確認し、練習した。 【研究の視点2】(2)-③ リハーサルタイムを設定し、1人で、ペアで、全員など学習形態を変えながらコミュニケーション活動で使用する表現を練習させた。児童が今まで慣れ親しんできた表現を自信をもって使えるようにした。

		(3) 友達に好きなものを尋ねたり伝えたりする。  (4) 各グループで結果を集計し、ランキングを完成させる。	【研究の視点2】(1)－②】 活動の途中で「Good Communication」(特に reaction) を意識できているかどうかの声かけをした。 【研究の視点2】(3)－①】 担任は「Good Communication」を意識している児童や英語の音声の特徴を意識して発音している児童を認めたり褒めたりする声かけを積極的に行った。 ◆■児童と一緒に活動しながら、自信をもって発話できない児童がいたら声かけをした。 ◇各グループの集計結果を聞き、黒板に掲示したシートに記入してランキングを完成させる。
ま と め る	7	7 Today's review 振り返りカードに本時の感想を記入し、発表する。  8 Ending ○ That's all for today.	【研究の視点2】(3)－②】 振り返りカードには単位時間の目標を記入しておき、その目標についての感想を書けるようにした。また、友達のがんばりについて記入する欄を設けることで、相互評価ができるようにした。 振り返りカードに記述したことは発表させた。また、友達のがんばりに気付いていた児童や「Good Communication」を意識していた児童について教師から紹介することで、学習の成就感や達成感を味わえるようにした。

【評価】友達に好きなものを積極的(「Good Communication」を意識して)に尋ねたり伝えたりしようとしている。

【コミュニケーションへの関心・意欲・態度】

5 授業実践2

(1) 単元名 第4学年 Lesson 4 「動物クイズを楽しもう！」

(2) 単元の目標

- 動物の名前、体の部分、色の英語やジェスチャーを使って、積極的にクイズを出したり答えたりする。
- 動物の名前、体の部分、色の英語表現に慣れ親しむ。
- 日本語と英語の音の違いに気付く。

(3) 単元の指導計画

時	目標・活動（・）	評価				
		コ	聞 話	気	評価基準	評価方法
1	単元のゴールを知る。 ・動物クイズをする。 ・動物クイズをするために必要な表現等を出し合う。 ・【song】 Brown bear brown bear, What do you see? ・動物の名前や色を表す英語を知る。			○	日本語と英語の音の違いに気付いたりしている。	行動観察 ふり返しシート
単元のゴール「4年2組動物クイズ大会をしよう」						
2	動物の名前や色を表す英語に慣れ親しむ。 ・【song】 Brown bear brown bear, What do you see? ・【chant】 It's a cat チャンツ (Animal) It's red チャンツ (color) ・【game】 ダイナソーゲーム ・動物クイズをするために、体のどの部分を英語で言ったらいいかを考え、出し合う。			○	動物の名前や色を表す英語のリズムを意識して発音している。	行動観察 ふり返しシート
3	動物の名前、色、体の部分を表す英語に慣れ親しむ。 ・【song】 Brown bear brown bear, What do you see? ・【chant】 It's a cat チャンツ (Animal) It's red チャンツ (color) It's a head チャンツ (body parts) ・動物まねっこクイズをして、ジェスチャーをする。 ・英語やジェスチャーを使って動物クイズを作り、クイズを出す練習をする。			○	動物の名前や色の部分を表す英語のリズムを意識して発音している。	行動観察 ふり返しシート
4 本 時	英語のヒントやジェスチャーを使って、動物クイズを作り、クイズを出す練習をする。 ・【song】 Brown bear brown bear, What do you see? ・【chant】 It's a head チャンツ (body parts) ・【activity】 ペアで決めておいた動物についてヒントになる英語やジェスチャーを考えてクイズを出す練習をする。			○	英語のリズムを意識して発音したり、積極的にジェスチャーを使ったりしてクイズを出している。	行動観察 ふり返しシート
5	「4年2組動物クイズ大会」を行う。 ・【song】 Brown bear brown bear, What do you see? ・【chant】 It's a cat チャンツ (Animal) It's red チャンツ (color) ・クイズの練習をする。 ・【activity】 4年2組動物クイズ大会をする。			○	英語やジェスチャーを使ってクイズを出したり、友達のヒントを聞いて積極的にクイズに答えようとしたりしている。	行動観察 ふり返しシート

(4) 研究の視点

研究の視点 2— (1) コミュニケーションへの興味・関心を高める指導の工夫

- ① 「4年2組動物クイズ大会」を単元のゴールとなるコミュニケーション活動として第1時で提示した。動物クイズのモデルを見せることで、児童が動物クイズを出すために必要な英語の表現を主体的に考えたり、動物の名前、体の部分、色の英語の表現を学ぶことへの意欲を高めたりできるようにした。

- ② 「How do you say? (～は英語で何と言うか。)」の表現を指導した。クイズを考える際に、児童がクイズに出題したい動物の名前や、ヒントとなる体の部分、色をALTやECに進んで「How do you say?」の表現を使って尋ねることができるようにした。
- ③ 児童が主体的にクイズを作り、練習する時間を第3時、第4時で確保した。
- ④ 動物まねっこゲームを取り入れたり、チャンツにジェスチャーを取り入れたりすることで、クイズ大会の際に恥ずかしがらずにジェスチャーをできるようにした。

研究の視点2—(2) 英語を聞いたり話したりして慣れ親しむ活動の充実

- ① 本単元では次のようなチャンツ等を行って表現に慣れ親しませた。

歌・チャンツ	指導時	チャンツの内容
Brown bear, brown bear, what do you see? ソング	第1時～5時	Brown bear, brown bear, what do you see? I see a red bird looking at me...
What's this? チャンツ (電子音)	第2時～5時	What's this? / What's this? It's a cat. It's a cat. It's a cat, cat, cat! etc
クイズチャンツ	第4時～5時	No.1 Grey No.2 Big ears No.3 (gesture) What's this?

- ② 本単元で次のようなゲーム等を行って表現に慣れ親しませた。

時	Game/Activity	ゲームの特性			
		聞く	音に慣れる	記憶したり自分のものにしたりする	自分の意思で選んで発話する
1	動物クイズ	○	○		
2	ダイナソーゲーム	○	○		
3	動物まねっこゲーム			○	○
4	動物クイズ作り	○	○	○	○
5	4年2組動物クイズ大会	○	○	○	○

- ③ コミュニケーション活動の前には、使用する英語表現を1人やペアで練習するリハーサルタイムを設定し、自信をもって英語で尋ねたり伝えたりできるようにした。

研究の視点2—(3) 評価の工夫

- ① 児童の活動の際は、指導者が発音やリズムを意識しながら英語を話している児童や「Good Communication」を意識している児童を積極的に認めたり褒めたりして評価した。
- ② ふり回りカードの次の視点から工夫した。

- ・1 単位時間の目標を記入しておき、その目標についてのふり回りを書けるようにする。
- ・「Good Communication」の3つの視点について、自己評価ができるようにした。

(5) 本時の学習

- ① 本時の目標 英語のヒントやジェスチャーを使って、動物クイズを作り、クイズを出す練習をする。

② 本時の展開（４／５）

学習過程	時間	学習活動	教師の指導と評価 担任 (T1:◇) EC (T2:◆) ALT (T3:■)
課題をつかむ	6	1 Greeting あいさつをする。 2 Warm up 英語の歌を歌う。 ○ Let's sing! 「Brown bear brown bear, What do you see?」  3 Today's goal 本時の学習課題をつかむ。 	◇あいさつも clear voice を意識させた。 ◇ピクチャーカードを示しながら歌を歌った。 ◆■児童の発音の様子を見ながら、一緒に歌った。 【研究の視点2】(2)－① 児童が動物の名前や色の表現に慣れ親しめるように事前に読み聞かせした絵本「Brown bear」にメロディを付けて歌を作成した。朝の会でも歌うことで表現に十分に慣れ親しませた。 【研究の視点2】(1)－① 次時のクイズ大会に向けて、本時でどんな学習をすればよいかを児童に考えさせ、本時の目的意識をもたせた。
		英語のヒントやジェスチャーを使って、動物クイズを出せるようになる	
しっかり考える	32	4 Chant (1) 動物の体の部分や色を表す表現を確認する。  (2) 「What's this? chant」をする。 ○ Let's chant! 「What's this? chant!」  5 Activity (1) クイズの作り方、クイズを出す練習の仕方を確認する。 	【研究の視点2】(2)－① 「What's this? chant」で本時で使用する表現に繰り返し慣れ親しませた。 最初に色や体の部分の表現の確認をした。この時に、ALTの発音を注意して聞かせ、英語のリズムや強く言う部分を意識させた。 【研究の視点2】(1)－④ チャンツの中でもジェスチャーを取り入れて慣れさせることで、児童がクイズの時に抵抗感なくジェスチャーができるようにした。 ◆児童と一緒にチャンツをしながら、必要に応じて個別指導にあたった。 ◇◆■クイズの作り方、クイズの出し方をモデルで示して、活動の手順や留意点について確認した。
		<動物クイズの出し方> ペアで出題する。英語で動物の色や体の部分を言ったり、ジェスチャーをしたりして3つヒントを出す。 (例) Q No.1 「Gray」 No.2 「Big ears」 No.3 (Gesture) What's this? A It's elephant!	

		(2) リハーサルタイム (3) クイズを作って練習する。  ALT: OK! It's arm.  C: How do you say 「うで」?   (4) 作ったクイズをグループで出し合って練習する。 (5) 2問以上作ったペアが全体の前でクイズを出題して練習する。  	【研究の視点2】(2)－③ リハーサルタイムを設定し、活動で使用する表現でクイズチャンツをしたり、ペアでクイズを出し合う練習をしたりして、自信をもって使えるようにした。 【研究の視点2】(1)－② 「How do you say～?」の表現を指導しておくことで、児童が知りたい英語の表現を尋ねることができるようにした。 【研究の視点2】(1)－③ クイズを作って練習する時間を十分に確保して、児童がペアで意見を出し合いながら主体的に活動を進められるようにした。 【研究の視点2】(3)－① 英語のリズムや強く言うところを意識して発音の練習をしていたペアをALTに見つけて褒めてもらい、練習の途中に全員の前でモデルとして紹介した。担任はモデルのよかったところを発表させ、児童に英語のリズムを意識して練習するように指導した。 【研究の視点2】(2)－③ ペアで作って練習したクイズをグループで出し合ったり、全体で発表してみんなで答えたりする活動を行って学習形態を変えながら、クイズで使用する表現やジェスチャーに慣れ親しませた。
ま と め る	7	7 Today's review 振り返りカードに本時の感想を記入し、発表する。  8 Ending ○ That's all for today.	【研究の視点2】(3)－② 振り返りカードには単位時間の目標を記入しておき、その目標についての感想を書けるようにした。また、本単元で意識させたい「Good Communication」の3項目についても自己評価する欄を設けた。感想は全体の場で発表してみんなで認めたり、褒めたりすることで学習の達成感を味わわせ、次時への意欲を高めた。

【評価】英語のリズムや強く言うところを意識して英語でヒントを出したり、ジェスチャーを使ったりしてクイズを出す練習をしている。 【聞くこと・話すこと】

VII 研究の成果と課題

1 研究の視点について

視点①「指導体制の充実」

- 付けたい力や態度が明確になったことで、目指す姿を共通理解することができた。
- EC を設置し、役割を明確にしたことで、授業前の打ち合わせ、単元の指導計画の作成等、ALT との連絡調整、教材の準備、授業の実施、指導後の反省まで円滑に行えるようになった。
- 褒め言葉や指示の言葉を中心にミニ研修を行ってきたことで、先生方の意識調査の項目「クラスルームイングリッシュの褒め言葉を使っている。」のポイントが1学期よりも2学期に向上した。教師の英語を話す力も向上しつつある。
- 事前研を模擬授業形式で行ったことにより、児童の視点からの改善点を出し合うことができた。また、チャンツやゲーム等のアイディアを増やすことができた。
- ▲年間指導計画は各学年の目指す児童像や児童の実態を踏まえ、時数や指導内容について練り直す必要がある。
- ▲今後は嘉島東小、嘉島中学校との連携や共通実践を検討していく必要がある。

視点②「英語に慣れ親しみ、コミュニケーションを図る楽しさや大切さを実感できる授業づくり」

- 単元のゴールを設定することは、目的意識や学習意欲を高める上で効果的だった。
- 英語の表現に慣れ親しませるために、目的意識をもたせてチャンツやゲームを繰り返したことで、自信をもって英語を話す姿が多く見られるようになった。
- EC と ALT の会話を見せて強く発音しているところを児童に意識させたり、英語のリズムを意識したチャンツをしたりしたことで、英語の音声的特徴を意識して話そうとする姿が見られるようになった。
- 振り返りカードの工夫を重ねたり、振り返りの前に再度めあての確認をしたりすることで、児童がめあてに沿った振り返りを書けるようになってきている。
- ▲英語のリズムを意識した会話がチャンツではできていても、コミュニケーション活動に生きていない児童もいるため、今後の更なる指導方法の工夫が必要である。

視点③「英語に慣れ親しめる環境づくり」

- MET を始めたことで、英語に慣れ親しむ機会を増やすことができた。児童も MET を楽しみにしている。

○今年度は児童が親しみやすい歌や授業で学習した歌等を朝から放送したことで、児童が自然と口ずさんでいる姿が昨年度よりも多く見られた。

○ALT と会話をしたらスタンプがもらえる取組を始めた結果、授業時以外でも学習した英語を使って ALT と話そうとする児童の姿がたくさん見られるようになった。

▲掲示物を見ることに関しては児童の意識が低かった。ピクチャーカードだけでなく、世界の文化や生活習慣等を知れる掲示物を作成して、児童の世界の文化への興味・関心を高める必要がある。

2 児童の意識調査の結果について

＜ET 意識調査の結果表＞

＜調査方法＞1学期末と2学期末に、3年生以上の児童に意識調査を実施した。児童に各項目について「とてもそう思う(4点)」「そう思う(3点)」「あまり思わない(2点)」「思わない(1点)」のいずれかで答えさせ、合計点を出し、人数で割って平均点を出した。		
1, 2学期ともに平均3点を上回った項目	1学期	2学期
ET の時間は楽しい。	3.4	3.4 →
英語をもっとたくさん学びたい。	3.4	3.3 ↓
英語の発音やリズムに気を付けながらチャンツをしたり歌ったりしている。	3.2	3.3 ↑
英語の発音やリズムに気を付けて話している。	3.1	3.1 →
何のために英語を聞いたり話したりするかが分かっている。(単元のゴール)	3.1	3.1 →
相手の目を見て会話をしている。(eye contact)	3.1	3.3 ↑
先生や友達の話す英語をしっかり聞いて意味を理解しようとしている。	3.2	3.3 ↑
笑顔で会話をしている。(smile)	3.1	3.2 ↑
はっきりした声で英語を話している。(clear voice)	3.0	3.1 ↑
朝の英語の放送を聞いている。	3.1	3.3 ↑
もっと外国の文化を知りたい。	3.2	3.1 ↓
1, 2学期ともに平均3点を下回ったが、2学期に平均点が向上した項目	1学期	2学期
英語を話す時にジェスチャーを使っている。(gesture)	2.5	2.7 ↑
朝の英語の放送を聞いて歌ったり、体を動かしたりしている。	2.3	2.6 ↑

意識調査の結果を見ると、英語の発音やリズム、「Good Communication」に関わる項目の平均点が向上してきていることが分かる。また英語の放送に関する平均点も向上してきている。2学期末の「ET の時間は楽しい。」と答えた理由の記述では、「友達と英語で話すのが楽しいから。」「英語で自分の思いを伝えられるから。」「英語で表現するのが楽しいから。」等の目指す児童の姿に近づいた記述が見られるようになった。これらの結果は、研究の視点である「指導体制の充実」、「英語に慣れ親しみコミュニケーションの楽しさや大切さを実感できる授業づくり」、「英語に慣れ親しめる環境づくり」に取り組んできた成果が表れていると言える。今後もさらに研究を重ね、英語に慣れ親しみ、積極的にコミュニケーションを図ろうとする児童を育成していきたい。